

必ず読んでください

日本脳炎予防接種についての説明書

1. 病気について

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。感染者のうち100人～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

2. ワクチンについて

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し(不活化)、精製したものです。

副反応としては、2日以内に37.5℃以上の発熱や、注射局所の発赤、腫脹、発疹、圧痛等がまれにあります。ごくまれに、重い副反応が現れることがあるため、接種後1週間はお子さんの体調をよくみてください。

3. 接種回数と間隔

回数	接種間隔等
第1期(3回)	初回接種(2回):満3歳以上(大田市)90か月未満(標準として3歳)に1週間から4週間の間隔をあけて2回接種 追加接種(1回):2回目の接種後おおむね1年後(標準として4歳)
第2期(1回)	9歳以上13歳未満(標準として9歳)

※平成25年2月1日の政省令改正により、積極的勧奨の差し控えにより第1期及び2期が完了していないお子さんについては、平成19年4月1日以前に生まれた方は20歳になるまでの間に、定期接種として接種することができます。詳しい情報は、厚生労働省のホームページ「日本脳炎ワクチン接種に係るQ&A」をご覧ください。

4. 以下のことに注意してください

- ① 予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 接種に連れていく予定にしても、体調が悪く思ったら、やめましょう。
- ③ 子どもの日頃の状態を知っている保護者の方が連れていきましょう。また、卵などの食品や、薬などにアレルギーがないか日頃からよく注意をして見ておきましょう。
- ④ 予診票はお医者さんへの大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。母子健康手帳がないと接種できません。
- ⑥ 接種後は、30分間は接種場所で子どもさんの全身状態を観察しましょう。

5. ワクチンについて予防接種による健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、大田市健康増進課へご連絡ください。